



生徒の皆さんへ

”冬来たりなば春遠からじ”の言葉を聞いたことがありますか。意味は辛い時期（冬）を耐え抜けば、幸せな時期（春）が必ず来るという例えです。季節は冬真っ盛り。えらぶでは春がそこまで来ていますが、冬にしっかりと力を蓄えよう。

現代の知の巨人が語る

やりたいことが見つからないなら一生かかって探せばいい

この言葉は、60歳で日本生命のサラリーマン生活から子会社へ、そこから転身して「ライフネット生命」を起業したのち、70歳から、立命館アジア太平洋大学の学長として活躍する出口治明さんの名言である。出口さんは世界の1,200の都市を旅し、稀代の読書家としても有名で「現代の知の巨人」とも称される方である。

その出口さんによると「新型コロナウイルスによって世の中は一変した。この先、何が起こるか誰にも分からないのに、人生設計やキャリア設計を考えようとするにはムリがある。世の中、9割以上の人がやりたいことが見つからないのではないだろうか。だから、やりたいこと、好きなことがどうしても見つからないからと言って、焦ったり、悲観したりすることはない。一生かかってゆっくりと探してみるのもいいのではないか」と語られている。

その上で「人間にとって大事なものは将来を見通したり、詳細な人生設計を立てたりすることではなく、何が起こっても生きていける適応力である」と断言されている。確かに、どんな未来が来るかなんて誰にもわからないし、このコロナ禍の時代を先読みした人は、ほとんどいないだろう。それゆえ、人生は川の流れに身を任せるかのように、何が起こるか分からないのである。そこで、大事なものが、流れに柔軟に対応できる「適応力」である。

適応力と聞けば、ダーウィンの言葉とされる「強いものや賢いものが生き残るわけではなく、変化に適応できるものが生き残る」を思い出させるが、実はこれは史実とは違うらしい。現代では「生物は環境に合うように進化したのではなく、たまたま持って生まれた形質が、突然変異によって変化して淘汰されずに生き残ったという説が正しい」らしい。これを踏まえて、出口さんは「人生は運と呼ばれる偶然に向き合い、適応力で成り立っている」と言われており、そのうえで、適応力の入口である直観を是非とも大切にしてほしいと話されている。そのために、「人・本・旅」で直観を磨いてほしいとも言われている。

生徒の皆さんも、やりたいことが見つからない人も多いのではないだろうか。まとめると、偶然の出会いや偶然に遭遇した出来事に対して、直観を大切にしながら、柔軟に対応していく適応力こそが人生のポイントといえる。私たちは焦ることなくゆっくりと一生をかけてやりたいことを探していきたい。



出口治明さん

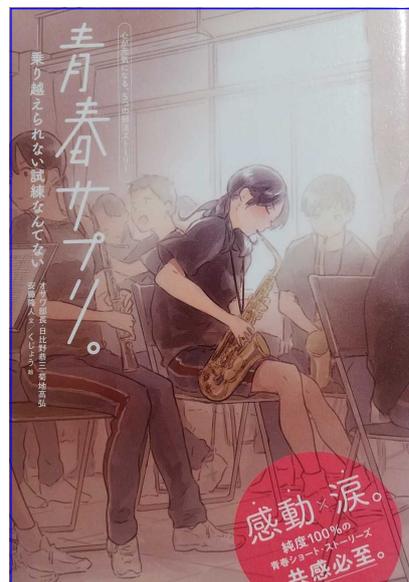
読書への誘い（本校図書室に置いてある本）
『青春サプリ。いつだってそこに仲間がいる』
『青春サプリ。自分がここにいる理由』
『青春サプリ。乗り越えられない試練なんてない』
（心が元気になる，5つの部活ストーリー）

青木美帆 田中夕子 近江屋一朗 日比野恭三 菊池高弘 安藤隆人 他著 ポプラ社

この3冊のほかに残り2冊もある青春サプリシリーズ全5冊。実在する高校を舞台に，部活動をふくめて学校生活を追いながらドキュメンタリータッチで描いています。感動×涙。リアルな中高生の青春の悩みに，共感必至です。

体育系，文化系にかかわらず，部活動で活躍する英雄たちにスポットを当てながら展開するストーリーは全て実話です。彼らが，日々悩み，奮闘する姿はまぶしいくらいキラキラと輝いていて，読んだ後には爽快な気持ちになれます。そして，どこからともなく前向きな気持ちと勇気がわいてくる一冊です。

部活動をはじめさまざまなことで悩んでいる。そのあなた。悩んでいるのは自分だけじゃないって分かります。先輩と後輩との心のわだかまり。同級生どうしの心の葛藤。優勝を求められるプレッシャーなど，さまざまな青春模様のなかで，壁を乗り越えるためにあり，それに立ち向かっていく姿に心を打たれます。そこには高校時代にしか経験できない「青春」があります。きっと，あなたも共感できるはずなので，是非とも手に取ってみてください。



保護者の皆様へ

新型コロナウイルス感染症が再び拡がっており，感染力の強いオミクロン株の脅威に目が離せない状況となってきました。3年生は昨日から自宅学習期間となりましたが，私大入試が本格的にスタートしており，緊張感を持って無事に受験を終えてほしいと願うばかりです。学校においては，県のまん延防止等重点措置の適用を受けて，今後も適宜，十分な感染症対策を継続させて参ります。